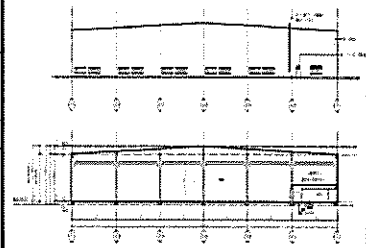


CASBEE®-建築(新築) | 評価結果 |

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版_追補版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2021SDGs(v2.3.5)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	京田辺新工場 新築プロジェクト	階数	地上1F
建設地	京都府京田辺市宮津大木1番1、2番	構造	S造
用途地域	用途地域指定なし・防火地域法指定なし	平均居住人員	80人
地域区分	6地域	年間使用時間	1,920時間/年(想定値)
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2026年2月 予定	評価の実施日	2025年4月19日
敷地面積	13,704 m ²	作成者	松永 康宏
建築面積	8,129 m ²	確認日	2025年4月26日
延床面積	8,232 m ²	確認者	田中 隆至



2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO ₂ (温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価 (レーダーチャート)
<p>BEE = 1.2</p> <p>標準計算</p> <p>このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです</p>		

2-4 中項目の評価 (バーチャート)		
Q 環境品質 (Qのスコア = 2.8)		
<p>Q1 室内環境 (Q1のスコア = 0.0)</p>	<p>Q2 サービス性能 (Q2のスコア = 3.3)</p>	<p>Q3 室外環境 (敷地内) (Q3のスコア = 2.5)</p>
LR 環境負荷低減性 (LRのスコア = 3.4)		
<p>LR1 エネルギー (LR1のスコア = 3.6)</p>	<p>LR2 資源・マテリアル (LR2のスコア = 3.2)</p>	<p>LR3 敷地外環境 (LR3のスコア = 3.4)</p>

3 設計上の配慮事項		
<p>適合</p> <p>ライフサイクルCO₂排出率の低減に努め、地球環境保護に配慮している。</p>		<p>その他</p> <p>特になし。</p>
<p>Q1 室内環境</p> <p>評価対象外</p>	<p>Q2 サービス性能</p> <p>階高:3.9m以上。 [壁長さ比率] < 0.1 ケーブルラック内配線により構造材・仕上材を痛めず更新・修繕ができる。</p>	<p>Q3 室外環境 (敷地内)</p> <p>特になし。</p>
<p>LR1 エネルギー</p> <p>BEEm = 0.50。</p>	<p>LR2 資源・マテリアル</p> <p>節水コマなどに加えて、節水型便器も採用している。 LGS使用している。 ODP=0、GWP=3の発泡剤を用いた断熱材を採用。</p>	<p>LR3 敷地外環境</p> <p>ライフサイクルCO₂排出率が81%。 燃焼機器を使用していない。 良い照明環境を得るためのフェリス及び広告物照明の配慮事項過半を満たしている。</p>

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される